のさへもあります。兎に角に、切角起つた婦人の運動が豫期の功果の幾分をも收め得なかつたことは、限りなく遺憾に思はれます。婦人活動の範圍は是より益々擴大せられることでせう。

篤學家と日本文學

近日市内の一二書店に瀟洒たる釘裝で牛津から出版になつた英譯の日本文學を御覽になつた方もありませう。右譯者は英人ポーター氏といつて「嘗ては造船家でありました。其建造の船に乘つて世界を廻つた途次、日本に立寄つて其風物を愛したのと、又濠洲メルボルンの圖書館に蒐集せられた日本文學物を目擊して興を起したのが動機となつて、爾來幾年かは職業の傍ら、後には遂に其職を捨てゝ專心日語日文の研究に勵み、牛津の圖書館に籠つて多年を費した結果、已に四種の譯書が出來ました、第一に出版したのは芭蕉以下各俳人の名句集で、日人の手になつた挿繪を入れたもの、至難事と思はれる俳語の譯を可成りに仕終ふせた手際と其勞苦とは確に稱讃に價すると思ひます。勿論多數の句の中には、感想を異にする外人の解釋を許さない處もあり、語類語法の相異の爲に譯出し得ないものもあります爲に、日本人が見て遺憾とする所は少くありません。

續いては百人一首、土佐日記、徒然草、何れも多年苦心の結果に成つたもので、牛津大學出版部は學界の爲に其出版を引受けました。現に譯者は昨年來日本に在住親しく諸般の觀察研究に當つて居られますから、遠からず他の著作を見る事が出來ませう。

其譯本の英文書名は次の如くに記憶します。

"A Year of Japanese Epigrams."
"Hundred Verses from Old Japan."
"Tosa Diary."
"the Miscellany of a Japanese Priest."

研究

目次

賀茂祭に就きて

(文科一部四年)